

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年9月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇普通期水稻◇(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど)

「夢つくし」の収穫は8月31日頃から開始しました。収穫最盛期は平年並みの9月12～20日頃の見込みです。穂数は平年よりやや多いが、5月移植を中心にトビイロウンカによる坪枯れも発生し、収量は平年よりやや少ないです。品質は登熟期間の高温の影響でやや劣ります。「元気つくし」の収穫は9月21日～9月30日頃、「ヒノヒカリ」の収穫は10月4～11日頃で、共に、8月の高温の影響で生育が回復し、平年並みの見込みです。トビイロウンカの発生は、過去10年で最も多く、5月移植の「夢つくし」で8月24日頃から坪枯れが発生しています。

収穫時期は、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して決定し、刈り遅れないよう留意しましょう。熟期が「元気つくし」以降の品種は、間断かん水を実施し早期落水を避けましょうトビイロウンカは、ほ場での発生状況を確認して、対策を徹底しましょう。特に中晩生品種は発生状況に注意しましょう。坪枯れが発生した場合は、可能な限り収穫を早めましょう。

◇大豆(フユカ)◇

開花期は8月25～9月7日頃で平年並みです。播種時期が遅れたことにより生育量は少ないです。7月中旬播種の生育は、現在、莢伸長期です。ハスモンヨトウの食害は平年に比べ少ないが、一部地域では増加しています。雑草は、アサガオ等の難防除雑草の多発ほ場が一部で見られます。

排水溝の整備に努め降雨後の表面排水を徹底する。排水後には、暗渠の栓を閉めるなど乾燥防止対策を徹底しましょう。紫斑病の対策を徹底しましょう。ハスモンヨトウとカメムシ類は、発生動向を把握して適期に対策を実施しましょう。雑草の発生が多いほ場では、収穫までに抜き取りを行います。

◇イチゴ◇

苗は、7月の多雨・日照不足の影響で根傷みや生育遅れにより充実不足の傾向です。早期作型は、一部の苗質の劣るものは作型を遅らせて対応しているが、概ね予定どおりの作型で花芽分化も比較的順調に進んでいます。普通作型の苗は、8月後半から苗質も徐々に良くなっており、花芽分化は平年並の見込みです。定植は、中山間地域で9月上旬から開始、平坦地は9月中旬から順次開始の予定です。台風10号の接近時にフィルムを除去したほ場もありましたが、定植準備は概ね順調に進んでいます。育苗期の浸冠水や多雨により炭疽病等の発生が見られ、一部の産地では苗不足も懸念されており、普通作型の定植が進んだ段階で調整を図る予定です。その他の病害虫では、ハダニ類、ヨトウムシ類、アブラムシ類の発生が見られます。

花芽分化確認後の計画的な定植を徹底するが、ほ場が過湿の場合は無理な畝立てや定植を行わないようにしましょう。炭疽病や害虫の対策を徹底しましょう。

◇ブドウ◇

巨峰の収穫終盤。梅雨明けが遅れたことにより、果粒の裂果、晚腐病やべと病等が多発するとともに、糖度上昇は緩慢でした。梅雨明け後は、糖度は回復したものの、強日射で果粒の日焼けや葉のしおれが発生し、平年に比べて果粒肥大は悪く、最終的には前年より収量が減少しました。果実の熟度や天候、病害の発生等を考慮し、適期収穫に努めましょう。収穫後は、べと病、トラカミキリ等の病害虫対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

無加温ハウスでは収穫中～終盤、露地では収穫ピークです。出荷量は前年・平年より少なく、出荷時期は前年より7日ほど遅いです。7月の長雨・日照不足により疫病が低位段果実に多く発生しています。また、8月以降の高温乾燥により小玉傾向となり、成熟異常果が一部発生しています。9月上旬の台風によりキズ果も発生しています。今後、気温低下に伴うショウジョウバエの発生が懸念されます。

腐敗、カビ、裂果に注意し、適期収穫、適正な選果、予冷等鮮度保持対策を図りましょう。ショウジョウバエの誘発を防ぐため過熟果や腐敗果は徹底して除去しましょう。収穫終了後の施設栽培では、過乾燥による根傷み防止のため灌水を徹底しましょう。

◇電照ギク◇

夏秋ギク品種の彼岸出荷（9月中旬）は、8月以降高温傾向であったが高度化施設への作付けと遮光により、高温による奇形花発生は抑えられています。9月上旬の台風により年末出荷分の定植がやや遅れています。アザミウマ類の発生がやや多く、ハダニ類、夜蛾類の発生も一部のほ場で見られます。

白さび病を本圃に持ち込まないよう親株への対策を徹底しましょう。ウイルス伝染を防ぐため、親株ほ場もアザミウマ類の対策を徹底しましょう。夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

6～8月の出荷量は、作付面積の減少により大きく減少しました。販売単価は8月が138円と高く、通期では前年並みとなりました。秋出荷作型（10～11月出荷）の生育は順調です。台風対策によるハウス閉め込みで、一部の株でチップバーンが発生していますが、影響は軽微に留まる見込みです。無駄芽や不要な側枝は早めにかぎとり、主茎の充実を努めましょう。斑点病、夜蛾類およびウイルス病を媒介するアザミウマ類やコナジラミ類の対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

8月の豚枝肉価格は、輸入品の供給減少、関東圏の出荷頭数減少及び家庭での需要増により、前年及び過去5年平均を上回りました。鶏卵価格は、供給量の増加基調及びコロナ禍による外食・加工販売の不振が継続し、前年及び過去5年平均を下回りました。

残暑が厳しいため、引き続き送風等の暑熱対策は継続しましょう。飼料用トウモロコシ等については、ツマジロクサヨトウの発生状況を確認して対策を徹底しましょう。飼料イネについては、トビイロウンカの発生状況を確認し、対策を徹底しましょう。